

ANAの現役CAからビジネス
マナーの指導を受けた



エアライン短期集中講座

× ANA Blue Base研修

客室乗務員(CA)を目指す学生のための講座が、8月3〜6日に開催された。選考に必要な知識・実践力・行動力を総合的に養う特別企画で、最終日の6日にはANAの教育訓練施設であるANA Blue Base(大田区)で施設見学やCAとの座談会を行い、業界理

解や職種理解を深めた。本学キャリア形成支援課は2025年4月、ANAエアラインスクールを運営するANAビジネスソリューション(株)と教育連携協定を締結。今回の研修は、この協定に基づき初めて実施された。21人の参加者は、現役CAからビジネスマナー

の基本を学んだ。座談会では、就職活動の取り組み方や必要とされる語学力などについて聞いた。国際コミュニケーション学部3年次生は「現役CAの立ち居振る舞いや言葉遣いを肌で感じられたのが収穫だった。就活のモチベーションが上がった」と話していた。

就職だより
4年次生へ夏期休暇も残りわずかとなり、就職活動の進み具合はいかがでしょうか。採用を継続する企業や追加募集を行う企業、本学学生の採用に意欲的な企業からの求人情報が、引き続き届いています。

9月17日(木)、18日(金)には「企業説明会」を開催します。応募先を広げたい方や、改めて企業を探したい方はぜひ参加してください。就職活動中の方は、就職支援システム「Sineet」の「専大のおすすめ求人」専大生に会いたい企業」も定期的に確認し、

応募先の検討に活用してください。活動の進め方や応募先選びに迷っている方は、一人で抱え込まず、早めにキャリア形成支援課へ相談してください。1〜3年次生へ10月3日(土)、神田キャンパスで大規模キャリアイベント「専修キャリアフェア【2026秋】」ここから深める私のキャリア」を開催します。

当日は、大手・有名企業をはじめ、幅広い業界の企業による説明会を実施します。このほか、内定者による体験談や個別相談、自己分析講座、1・2年次生向けのプレ就職ガイダンスなど、学年や就職準備の段階に応じた多彩なプログラムを用意しています。これからのキャリアを考え、次の一歩を踏み出す機会として、ぜひ参加してください。

なお、これに先立ち、3年次生を対象とした「28卒生対象」今すべき就活戦略ガイダンスを、9月24日(木)、25日(金)にオンラインで開催します。早期化する就職活動を見通し、秋以降に取り組むべきことを整理する重要な機会ですので、3年次生は必ず参加してください。

人間科学部は、心理学と社会学の2学科からなります。心理学は人の中に「心」を、社会学は人との「関係性」を実証的に研究します。実証的とは、思い付きではなく、事実やデータに基づいて考え、明らかにすることです。本学部では、人間を取り巻く諸課題を科学的に理解・解釈していくことを目指します。

前身である文学部人文学科時代から一貫して少人数教育を実践してきました。心理学の学修で不可欠な実験・演習・実習の授業では、教員らによるきめ細かい指導を行っています。社会学科では1年次から4年次まで全員がゼミ形式のクラスに所属し、議論や発表を通じて社会への関心を深めていきます。

私の専門分野は、地域社会学、災害社会学、社会調査論です。社会学科在籍の16人の教員それぞれが複数の専門分野を持ち、日本社会学会の大会で設置される部会・領域の多くを網羅しています。研究領域のバリエーションは、国内の大学のなかでも屈指の水準を誇ります。心理学科も同様に、基礎心理学・発達心理学・社会心理学・臨床心理学の各分野に高い専門性をそなえた教員がそろっており、多彩なアプローチで心の研究に取り組んでいます。

学生の中には、低学年次から幅広い領域に触れて知識のすそ野を広げてもらいたいですね。そして自ら探究

心や社会に正面から対峙

略歴 慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻後期博士課程単位取得退学。博士(社会学)。1999年本学社会学部講師、2006年同教授、10年人間科学部教授。高校時代を過ごした東京都国立市の街並みに魅了され、大学では地域研究のゼミに所属。その後、恩師の勧めで災害研究に傾注する。趣味はラグビー観戦とオートバイ。東京都出身。64歳。

したいテーマを見つけ、学びの集大成として卒業論文を完成させることを期待しています。学びを通じて、世の中の現象に正面から対峙する姿勢、思いやりや感受性を身につけ、人として大きく成長することを願っています。

本学部の魅力を多くの方に知ってもらえるよう、地域との交流活動などにも、これまで以上に積極的に取り組みたいと考えています。学部創設時の理念を継承しつつ、2学科の特色と専門性を発揮し、学部としての競争力を一層高めていきたいと思っています。



人間科学部長

大矢根 淳

国際コミュニケーション学部長

上原 正博

世の中にはさまざまな人が存在し、異なる意見や価値観を持っています。多様性を前提としながら、互いに理解し、合意形成を図るために欠かせないのがコミュニケーションです。そうした考えのもとに国際コミュニケーション学部のカリキュラムは組まれています。

その第1段階として本学部では「ことば」を中心に学んでいきます。同時に、それぞれのことばの背景となる地域や文化への理解を深めることで、教養に根差した言語運用能力を身につけます。身体や映像のワークショップでの体験を通して、非言語的コミュニケーションについても学べる点は学部の大きな特徴といえるでしょう。

文字、音声、語用、構造など、各分野の専門家がそろった日本語学では、日本語の深みを総合的に学びます。国際社会における日本語のあり方を考え、日本語のエキスポートとしての実

教養に根差した言語運用能力



略歴 ニューヨーク大学大学院英文科博士課程。東京大学大学院人文社会系研究科英語英米文学専攻博士課程単位取得満期退学。1998年本学法学部専任講師、2014年同教授、20年国際コミュニケーション学部教授。専門はアメリカ文学。研究者としての原点は、学生時代に触れたアフリカ系アメリカ人やネイティブアメリカンの文学。神奈川県出身。

実践力を磨くため、国内外で本格的な教育実習も行っています。異文化コミュニケーション学科では2年次前期に全員が希望する地域に留学します。全員留学の目的は、語学力の向上に加えて、現地での生活を通じてその地域の文化を肌で感じ取ること。帰国後には留学体験を生かし、専門的な学びに取り組みます。

本学の創立者はアメリカ留学ののち、高い志を持って専修学校を設立しました。本学部はその理念を受け継ぎつつ、常に進化し続けています。両学科の学生には、グローバル化した社会において、人と人をつなぐだけでなく、課題を深く理解する力のほか、対話を継続する力を養うことが求められます。大学生活では、生成AIが導き出すような無難な答えに満足することなく、自ら考えていく学びを深めてほしいと思います。

ウェルビーイング経営
リスクに強い企業をつくる



上田和勇 著

企業を取り巻く環境が不確実さを増すなか、働く人の心身の健康や人間関係の充実を意味する「ウェルビーイング」は、

階級と「私たち」のゆくえ
イギリス映画が照らす
連帯の物語



河野真太郎 著

本書は、階級社会と言われるイギリスの階級、とりわけ労働者階級がいかなる変遷をたどったかを、イギリス映画を中心に考える。

新しい本

職場でウェルビーイングを育てる要素などを多角的に検討し、人とのつながりや価値観の共有が組織の強さにつながることを示している。

著者(うへだ・かずお) 専修大学名誉教授。リスクマネジメント、保険論。

いまや、かつてのような労働者階級の連帯は姿を消しつつあるようにも見える。だが本書は、それがいかにして消えていったのか、そして何が残っているのかに、ケン・ローチ監督作品をはじめとする多様な映画作品を通して目を向けることで、新たな階級と連帯の構想の出発点に立ちとうとするものである。

本書ではイギリスの経験から日本の私たちが学べるところが大きいだろう。国際コミュニケーション学部教授。英文学。

ぜひ参加してください。

なほ、これに先立ち、3年次生を対象とした「28卒生対象」今すべき就活戦略ガイダンスを、9月24日(木)、25日(金)にオンラインで開催します。早期化する就職活動を見通し、秋以降に取り組むべきことを整理する重要な機会ですので、3年次生は必ず参加してください。